



2021年3月期第1四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2020年7月
大阪ガス株式会社

目次

I. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通しの概要

□ 21.3期第1四半期決算及び 21.3期見通しのポイント	- 4	□ 21.3期第1四半期販売実績	- 20
□ 21.3期見通しについて	- 5	□ 21.3期販売見通し	- 21
□ 21.3期第1四半期決算の対前年比較	- 6	□ 家庭用ガス販売	- 22
□ 21.3期修正見通しの対前回見通し比較	- 7	□ 業務用等ガス販売	- 23
□ 21.3期修正見通しの対前年比較	- 8		
□ 21.3期第1四半期の成長投資実績	- 9		
□ 21.3期第1四半期の主なトピックス	- 10		

III. 参考資料

□ 21.3期第1四半期の差異(対前年)	- 25-26
□ 21.3期見通し差異(対前年)	- 27-28
□ 年度見通しに対するリスク要因	- 29

II. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通し

□ 21.3期第1四半期実績	- 12-14
□ 21.3期見通し	- 15-19

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<https://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

I. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通しの概要

21.3期第1四半期決算及び21.3期見通しのポイント

2021.3期第1四半期決算 対前年同期比較

売上高	ガス事業における販売量減少、販売単価低下等により、 前年比5.3%(178億円)減収の3,172億円
経常利益	ガス事業におけるスライド影響、販売量減少等により、 前年比22.6%(93億円)減益の320億円 スライド差損は5億円(前年同期は52億円のスライド差益)
親会社株主に帰属する四半期純利益	前年比24.5%(70億円)減益の216億円

2021.3期見通し 対前回見通し(2020/5/11)比較

売上高	ガス事業における販売単価低下、販売量減少等により、 前回見通し比7.6%(1,130億円)減収の1兆3,800億円
経常利益	原油価格・米国金利の低下による海外エネルギー事業の減益はあるが、国内エネルギー事業のスライド影響等もあり、 前回見通しから変更なしの1,000億円 スライド差益は27億円(前回見通しは35億円の差損)
親会社株主に帰属する当期純利益	前回見通し比2.1%(15億円)減益の715億円

21.3期見直しについて

- 新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の縮小、原油価格下落等の業績への影響を合理的に算定することは困難であり、1Q時点で顕在化した影響、原油価格の前提見直しによる影響のみを織り込み見直しを修正
- 今後、業績への影響が合理的に算定可能となった時点で見直しの適宜修正・公表を行う

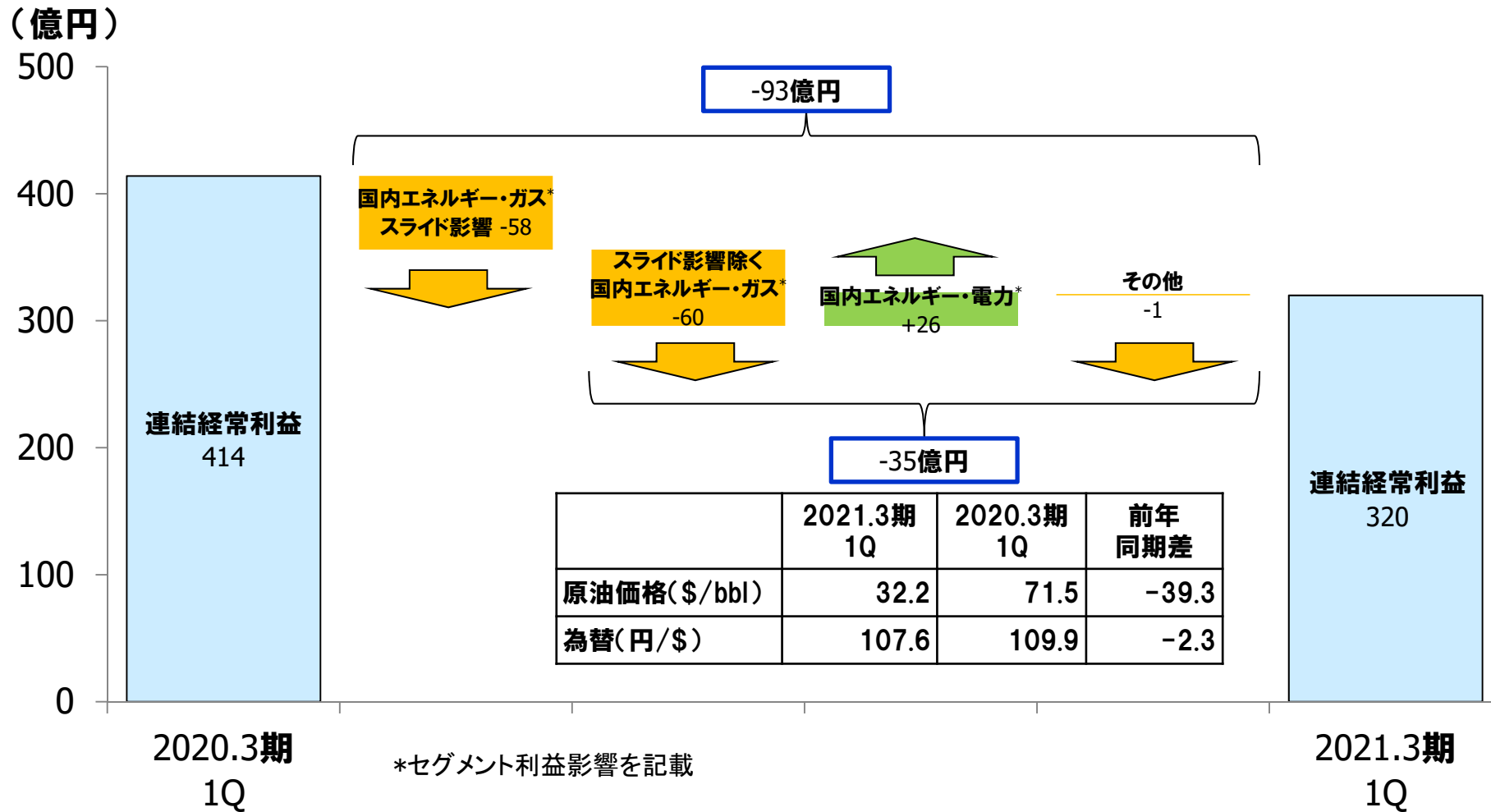
【新型コロナウイルス感染症の拡大が業績に与える影響】

	21.3期 1Q	21.3期 通期見直し（織り込み内容と今後の影響の可能性）
国内エネルギー事業	□ 販売単価、原材料費に反映される原油価格は概ね想定通り	□ 原油価格下落と2Q以降の原油価格の前提見直しによるスライド差益を織り込み*
	□ 家庭用ガス・電力小売販売量への大きな影響なし	□ 特になし
	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務用等ガス販売量は前年から16.3%減少 □ 金属・化学・飲食・ホテル業種を中心に減少 	<ul style="list-style-type: none"> □ 業務用等ガス販売量見直しは、1Q実績をもとに、前回見直しから一定程度の減少を織り込み □ 景気低迷の継続により影響がさらに拡大する可能性あり □ LNG需給緩和によるLNG転売損失が発生する可能性あり
	□ ガス離脱、電力獲得ともにペースが鈍化	□ 営業活動縮小により器具・サービス関連差益が減少する可能性あり
	□ エネルギーの安定供給は維持	□ 引続き感染防止対策の徹底やLNG調達国の分散等により、エネルギーの安定供給を維持
海外エネルギー事業	<ul style="list-style-type: none"> □ 上流事業は現時点で大きな影響なし □ 米国金利低下に伴うヘッジ会計適用外デリバティブの時価評価による減益影響が発生 	<ul style="list-style-type: none"> □ 原油価格下落と2Q以降の原油価格の前提見直しによる上流事業の業績低下*、1Q時点の米国金利の低下影響を織り込み □ エネルギー価格低下により中下流事業の業績が低下する可能性あり
ライフ&ビジネスソリューション事業	□ 一部事業（フィットネス事業）において業績が低下	<ul style="list-style-type: none"> □ 1Q時点のフィットネス事業における減益を織り込み □ 経済活動縮小により、LBS事業全般において業績が低下する可能性あり
成長投資	□ 建設工事の一部遅延が発生	□ 建設工事の進捗遅延の拡大、新規案件に対する投資活動への影響が発生する可能性あり

*原油価格▲1\$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は+約6億円変動する可能性がある

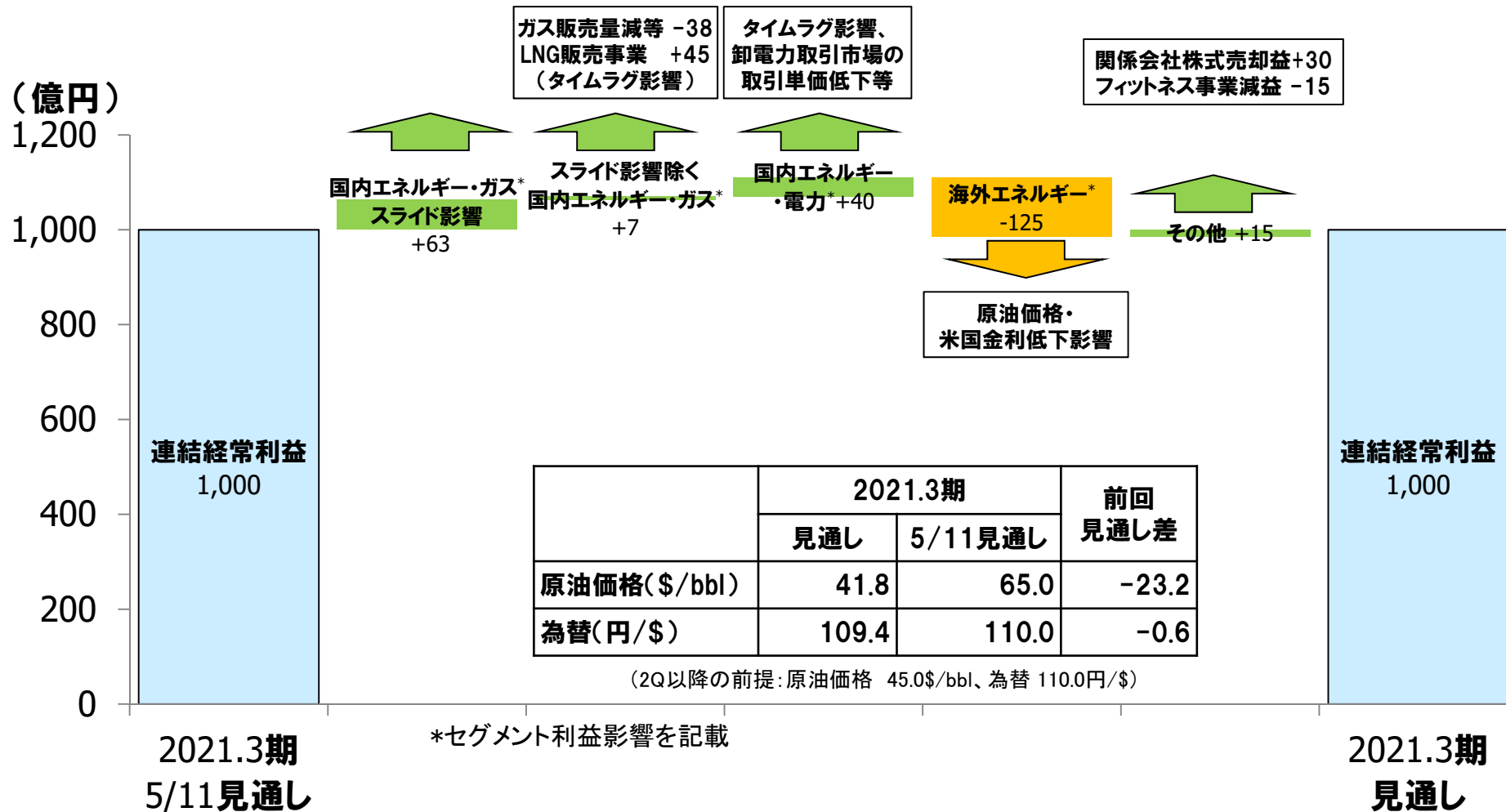
21.3期第1四半期決算の対前年比較

□ 2021年3月期第1四半期の連結経常利益は、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響、ガス販売量減少による減益等により、対前年-93億円の320億円



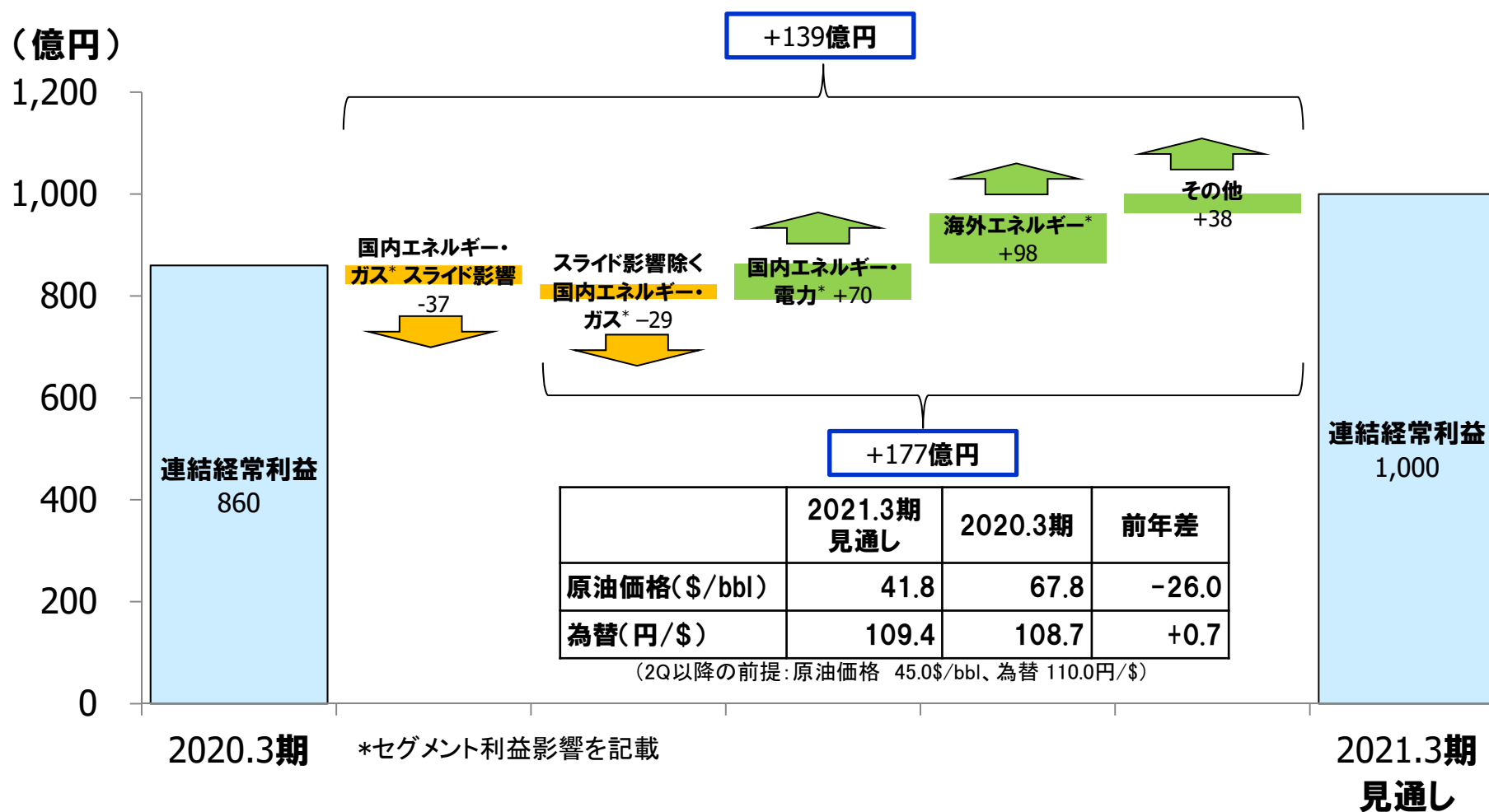
21.3期修正見通しの対前回見通し比較

□ 2021年3月期連結経常利益見通しは、原油価格・米国金利低下による海外エネルギー事業の減益、国内エネルギー事業におけるスライド・タイムラグ影響等を織り込み



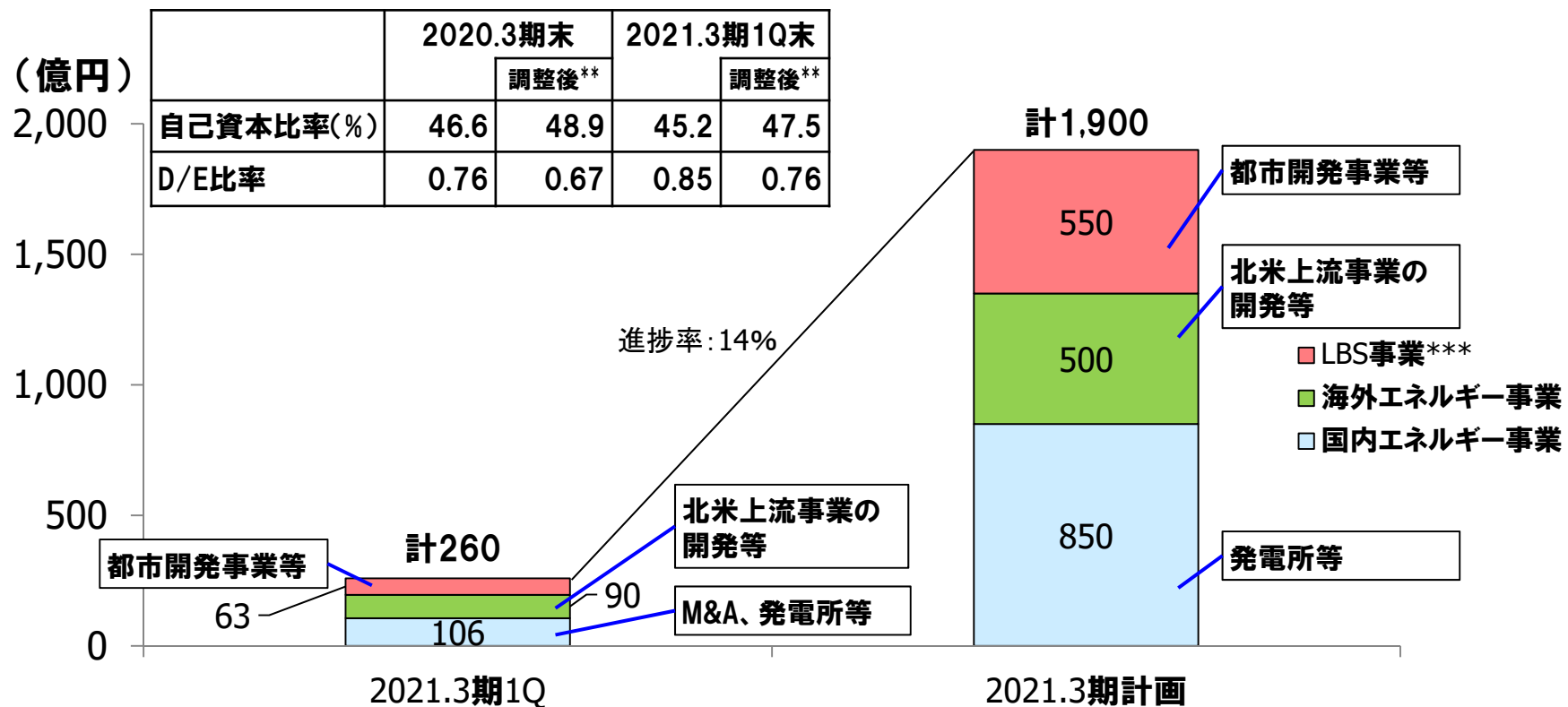
21.3期修正見通しの対前年比較

□ 2021年3月期の連結経常利益見通しは、フリーポートLNGプロジェクトの商業運転開始、北米上流事業会社の新規連結による海外エネルギー事業の増益等により、対前年+139億円の1,000億円



21.3期第1四半期の成長投資実績

- 2021年3月期第1四半期は、国内エネルギー事業におけるM&Aや発電所、海外エネルギー事業における北米上流事業の開発等に260億円の成長投資を実行
- 財務健全性は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響に備えた資金調達等により一時的に低下



* 投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります

** 発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

*** LBS: ライフ&ビジネス ソリューション

21.3期第1四半期の主なトピックス

4月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「扇島都市ガス供給株式会社」の都市ガス製造・供給設備の商業運転開始について ➢ 大阪ガスとNTT ComがAI自動音声対応によるコンタクトセンター受付サービスを開始 ～「ガス設備調査 訪問日時の変更」受付の利便性向上～ ➢ ドローンを活用したインフラ点検ソリューションを提供する株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマークへの出資について ➢ 画像解析を中心に優れたAI技術を保有するベンチャー企業株式会社HACARUSへの出資について
5月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 福島天然ガス発電所1号機の営業運転開始について ➢ 大阪ガスによるグローバルベイス社の株式取得について ➢ IoTプラットフォームを活用したシャープとの機器連携の開始について～シャープ提供のスマホアプリでIoT対応ガス機器の操作が可能に～
6月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 家庭用燃料電池エネファームによるバーチャルパワープラント (VPP) 構築実証事業を開始～1,500台が“ツナガル”VPP実証～ ➢ シンガポールSQC Investment Pte. Ltd.への出資によるベトナムでの産業ガス製造・販売事業への参画について
7月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ウィズプラン第3弾！「ウィズABEMAプラン」の受付開始について ➢ 自営等BWAシステムを活用したDX推進による現場業務の効率化 ～大阪ガス泉北製造所のスマートファクトリー化～ ➢ IoT対応ツナガルde警報器「スマびこ」の発売と災害・防犯情報提供に関する大阪市、大阪府警察との連携について ➢ 「ハートフル弁当プロジェクト」の実施について ～新型コロナウイルスと戦う医療従事者の皆さまを応援～

※プレスリリース実施月を記載

II. 21.3期第1四半期決算と21.3期見通し

21.3期第1四半期実績I

連結:億円()内は連単倍率	A. 21.3期 1Q	B. 20.3期 1Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.27) 3,172	(1.24) 3,350	-178	-5.3%	ガス販売量減、ガス販売単価低下等
営業利益	(1.61) 252	(1.28) 366	-114	-31.1%	ガス事業におけるスライド影響、ガス販売量減等
経常利益	(1.40) 320	(1.10) 414	-93	-22.6%	
四半期純利益*	(1.20) 216	(0.98) 286	-70	-24.5%	
EBITDA**	527	604	-77	-12.8%	
スライド差損益	-5	52	-58	-	
スライド差損益控除後 経常利益	326	361	-35	-9.8%	
原油価格***	\$/bbl 32.2	71.5	-39.3		
為替レート	円/\$ 107.6	109.9	-2.3		

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

** EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 持分法投資損益

*** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

21.3期第1四半期実績II

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 1Q	B.20.3期 1Q	A-B	A.21.3期 1Q	B.20.3期 1Q	A-B	
国内エネルギー・ ガス	2,251	2,520	-269	190	309	-119	利益:スライド影響、ガス販売量減等
国内エネルギー・ 電力	463	411	+51	37	11	+26	利益:卸電力取引の単価低下等
海外エネルギー	145	111	+33	6	9	-3	利益:前年並み 時価評価影響を除くとフリーポートLNGプロジェクト商業運転開始、北米上流事業会社の新規連結影響等により増益
ライフ&ビジネス ソリューション	497	490	+6	31	35	-4	利益:前年並み
消去又は全社	-184	-184	-0	26	18	+8	
連結	3,172	3,350	-178	292	385	-92	

* セグメント損益＝営業損益＋持分法投資損益

**21.3期1Qより、(株)ガスアンドパワー(国内エネルギー・電力)をDaigasガスアンドパワーソリューション(株)(国内エネルギー・ガス)に吸収合併。20.3期1Q実績はこの影響を考慮して算定

内、ヘッジ会計適用外のデリバティブ時価評価影響
21.3期1Q -40, 20.3期1Q -4, 前年差 -35

21.3期第1四半期実績III

連結:億円	A. 21.3期 1Q末	20.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	21,868	20,423	21,404	+464	現預金増等
自己資本	9,888	10,142	9,974	-86	
有利子負債	8,419	6,891	7,540	+879	資金調達等
在籍人員(人)	20,942	20,689	20,543	+399	オービス総研G等
自己資本比率	45.2%	49.7%	46.6%	-1.4%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(47.5%)	(49.7%)	(48.9%)	(-1.4%)	
D/E比率	0.85	0.68	0.76	+0.10	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.76)	(0.68)	(0.67)	(+0.09)	

*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

連結:億円	A. 21.3期 1Q	B. 20.3期 1Q	A-B	備考
設備投資	288	257	+30	
減価償却費	234	219	+14	
フリーキャッシュフロー**	146	459	-313	

** フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出)－品質向上投資による支出

21.3期見通しI

連結:億円 (()内は連単倍率)	A. 21.3期 見通し	B. 21.3期 5/11見通し	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.30) 13,800	(1.28) 14,930	-1,130	-7.6%	
営業利益	(2.14) 900	(2.94) 910	-10	-1.1%	
経常利益	(1.89) 1,000	(2.56) 1,000	-	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.74) 715	(2.43) 730	-15	-2.1%	
EBITDA*	1,975	2,000	-25	-1.2%	
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 持分法投資損益					
スライド差損益	27	-35	+63	-	
スライド差損益控除後 経常利益	972	1,035	-63	-6.1%	
原油価格**	\$/bbl	41.8	65.0	-23.2	2Q以降 45.0\$/bbl
為替レート	円/\$	109.4	110.0	-0.6	2Q以降 110.0円/\$

** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

21.3期見通しII

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 見通し	B.21.3期 5/11見通し	A-B	A.21.3期 見通し	B.21.3期 5/11見通し	A-B	
国内エネルギー・ ガス	8,975	9,935	-960	465	395	+70	利益:スライド影響等
国内エネルギー・ 電力	2,310	2,410	-100	150	110	+40	利益:タイムラグ影響等
海外エネルギー	790	875	-85	180	305	-125	利益:原油価格・米国金利の 低下影響
ライフ&ビジネス ソリューション	2,235	2,260	-25	215	225	-10	利益:フィットネス事業の減益
消去又は全社	-510	-550	+40	-	-	-	
連結	13,800	14,930	-1,130	1,010	1,035	-25	

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

21.3期見通しIII

連結:億円 (()内は連単倍率)	A. 21.3期 見通し		B. 20.3期		A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.30)	13,800	(1.26)	13,686	+113	+0.8%	
営業利益	(2.14)	900	(1.83)	837	+62	+7.4%	海外エネルギー事業における増益等
経常利益	(1.89)	1,000	(1.47)	860	+139	+16.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.74)	715	(0.93)	417	+297	+71.1%	前年度の海外上流事業における減損損失の反動等
EBITDA*		1,975		1,809	+165	+9.2%	
スライド差損益		27		65	-37	-	
スライド差損益控除後 経常利益		972		795	+176	+22.3%	海外エネルギー事業における増益等
原油価格**	\$/bbl	41.8		67.8	-26.0		2Q以降 45.0\$/bbl
為替レート	円/\$	109.4		108.7	+0.7		2Q以降 110.0円/\$

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 持分法投資損益

** 21.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

21.3期見通しIV

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.21.3期 見通し	B.20.3期	A-B	A.21.3期 見通し	B.20.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス	8,975	9,737	-762	465	531	-66	利益:スライド影響、ガス販売量減 等
国内エネルギー・ 電力	2,310	2,048	+261	150	79	+70	利益:電力販売量増、卸電力取引 市場の取引単価低下等
海外エネルギー	790	612	+177	180	81	+98	利益:フリーポートLNGプロジェクト 商業運転開始、北米上流事業会社 の新規連結影響等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,235	2,194	+40	215	196	+18	利益:材料ソリューション事業の増益 等
消去又は全社	-510	-906	+396	-	1	-1	
連結	13,800	13,686	+113	1,010	890	+119	

* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

21.3期見通しV

連結:億円	A. 21.3期末 見通し	B. 20.3期末	A-B	備考
総資産	22,852	21,404	+1,447	成長投資の進捗等
自己資本	10,568	9,974	+593	
有利子負債	8,344	7,540	+804	資金調達等
在籍人員(人)	21,450	20,543	+907	Jacobi, オージス総研G等
自己資本比率	46.2%	46.6%	-0.4%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(48.4%)	(48.9%)	(-0.5%)	
D/E比率	0.79	0.76	+0.03	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.71)	(0.67)	(+0.04)	

連結:億円	A. 21.3期	B. 20.3期	A-B	備考
設備投資	2,030	1,310	+719	成長投資の進捗等
減価償却費	956	919	+37	
フリーキャッシュフロー**	863	1,253	-390	運転資本の増等
ROA	3.2%	2.0%	+1.2%	
ROE	7.0%	4.2%	+2.8%	
EPS(円/株)	172.0	100.5	+71.5	
BPS(円/株)	2,541.7	2,399.1	+142.7	

*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

**フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出)－品質向上投資による支出

21.3期第1四半期販売実績

*ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数

**用途別の差異要因はP.22・23に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		A. 21.3期1Q	B. 20.3期1Q	A-B	(A-B)/B (%)
個	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,153	5,430	-277	-5.1%
	新設工事件数(千件)	25	23	+1	+5.8%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	31.3	29.1	+2.2	+7.4%
別	家庭用**	467	459	+8	+1.8%
	業務用等**	1,121	1,340	-219	-16.3%
ガス販売量合計(百万m ³)		1,588	1,799	-211	-11.7%
連結ガス販売量		1,601	1,812	-211	-11.6%

■ 電力販売(連結)

		A. 21.3期1Q	B. 20.3期1Q	A-B	(A-B)/B (%)
	小売	1,121	869	+252	+29.0%
	卸等	2,164	1,914	+249	+13.0%
国内電力販売量(百万kWh)		3,285	2,783	+501	+18.0%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		1,375	1,077	+298	+27.7%

■ お客さまアカウント(連結)

		A. 21.3期1Q末	B. 20.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)		911	910	+0	+0.0%

21.3期販売見通し

*用途別の差異要因はP.22・23に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		21.3期 5/11見通し	A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
個 別	家庭用*	1,770	1,798	1,798	-0	-0.0%
	業務用等*	5,552	5,200	5,526	-326	-5.9%
ガス販売量合計(百万m ³)		7,322	6,998	7,324	-327	-4.5%
連結ガス販売量		7,358	7,034	7,362	-329	-4.5%

■ 電力販売(連結)

	21.3期 5/11見通し	A. 21.3期 見通し	B. 20.3期 実績	A-B	(A-B) /B (%)
国内電力販売量(百万kWh)	16,567	16,567	13,189	+3,378	+25.6%

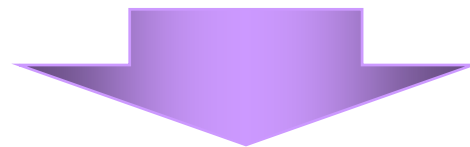
■ お客さまアカウント(連結)

	21.3期末 5/11見通し	A. 21.3期末 見通し	B. 20.3期末	A-B	(A-B) /B (%)
お客さまアカウント数(万件)	930	930	910	+20	+2.2%

家庭用ガス販売 21.3期第1四半期実績、21.3期見通し

21.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	-3.8%	他社へのスイッチング等
気水温影響	+5.6%	平均気温19.8度(対前年同期 +0.0度)
その他	-0.0%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+1.8%	



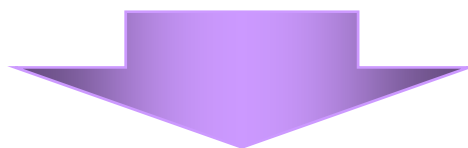
21.3期見通し

- 平年気水温を前提とした気水温影響の反動による増加、離脱影響等により、前年並みの1,798百万m³を見込む。

業務用等ガス販売 21.3期第1四半期実績、21.3期見通し

21.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+0.6%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.1%	
設備稼働増減	-10.6%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響等
個別要因	-5.9%	特定のお客さま先での減少、他社へのスイッチング等
その他	-0.5%	
合計	-16.3%	



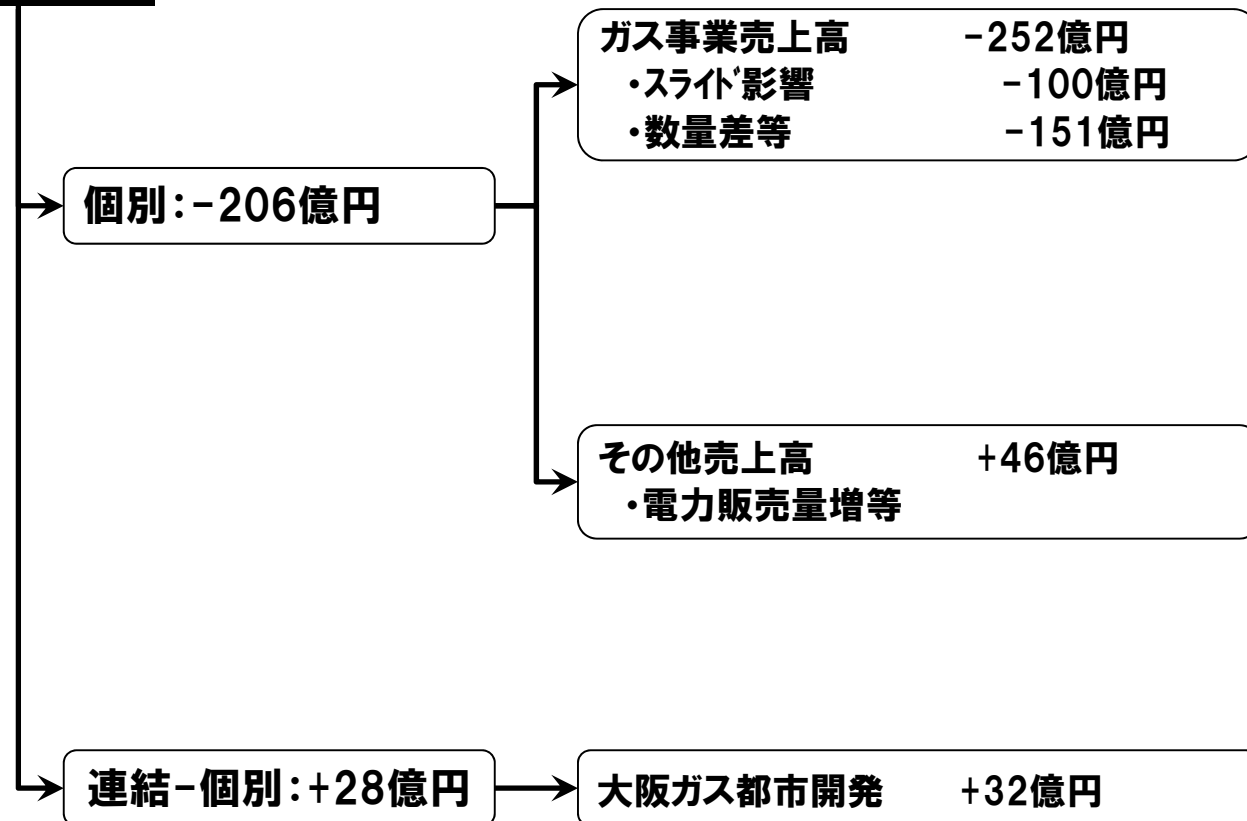
21.3期見通し

- 新型コロナウイルス感染症の拡大影響等を、21.3期1Q実績をもとに一定程度織り込むことで、前年比-5.9%、326百万m³減の5,200百万m³を見込む。

III. 參考資料

21.3期第1四半期の売上高差異(対前年)

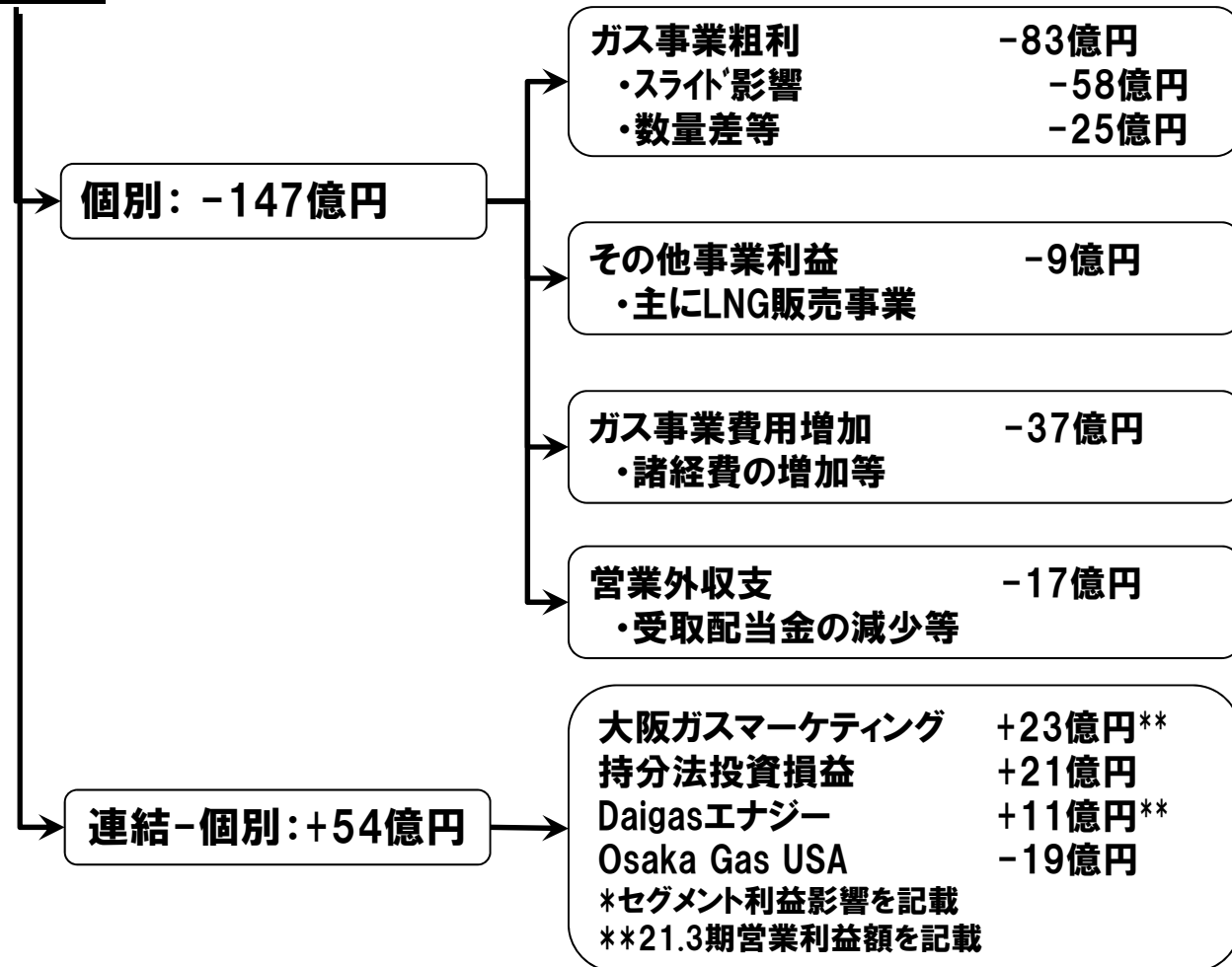
20.3期1Q → 21.3期1Q (差異)
 3,350億円 3,172億円 (-178億円)



21.3期第1四半期の経常利益差異(対前年)

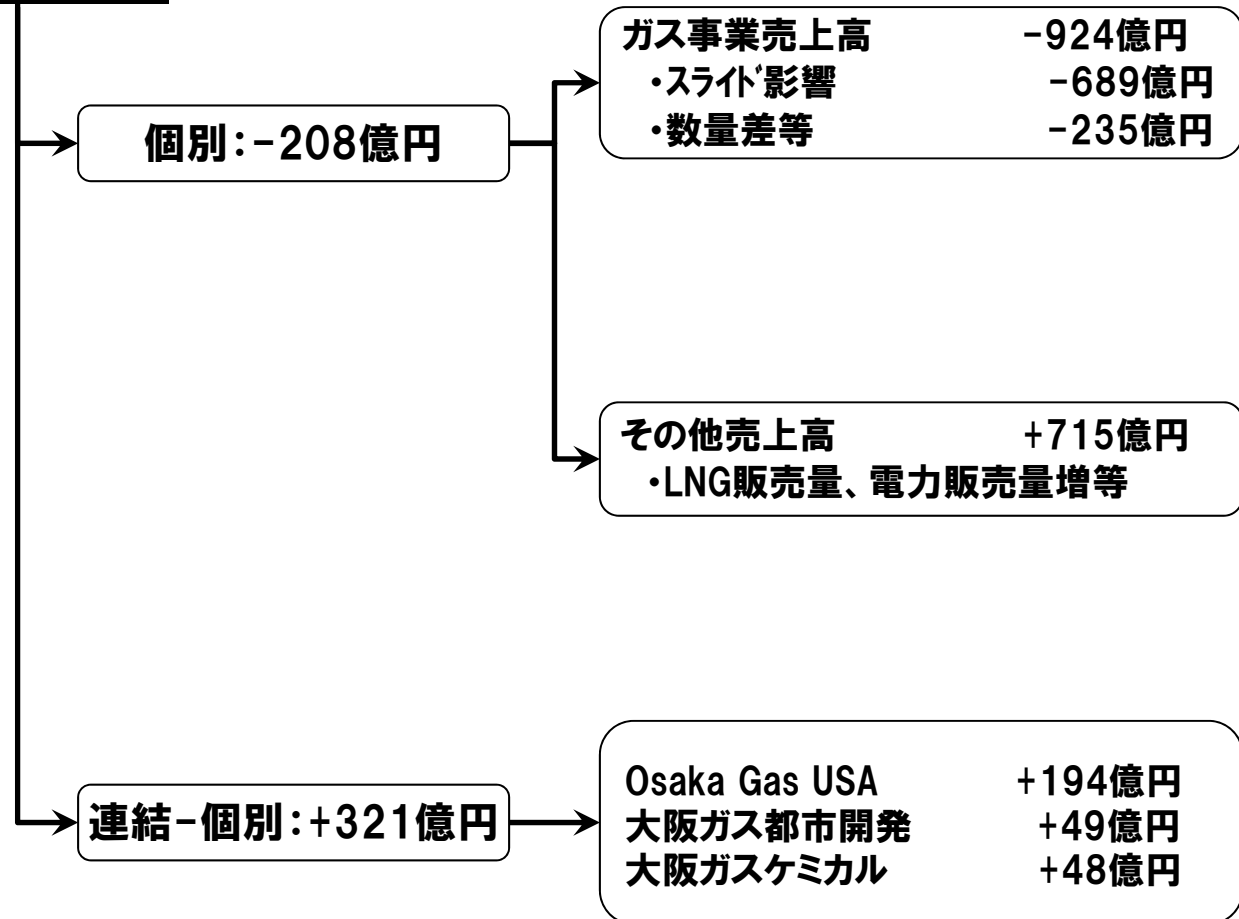
20.3期1Q → 21.3期1Q (差異)
 414億円 320億円 (**-93億円**)

+-の符号は利益への影響を表す。



21.3期見通しの売上高差異(対前年)

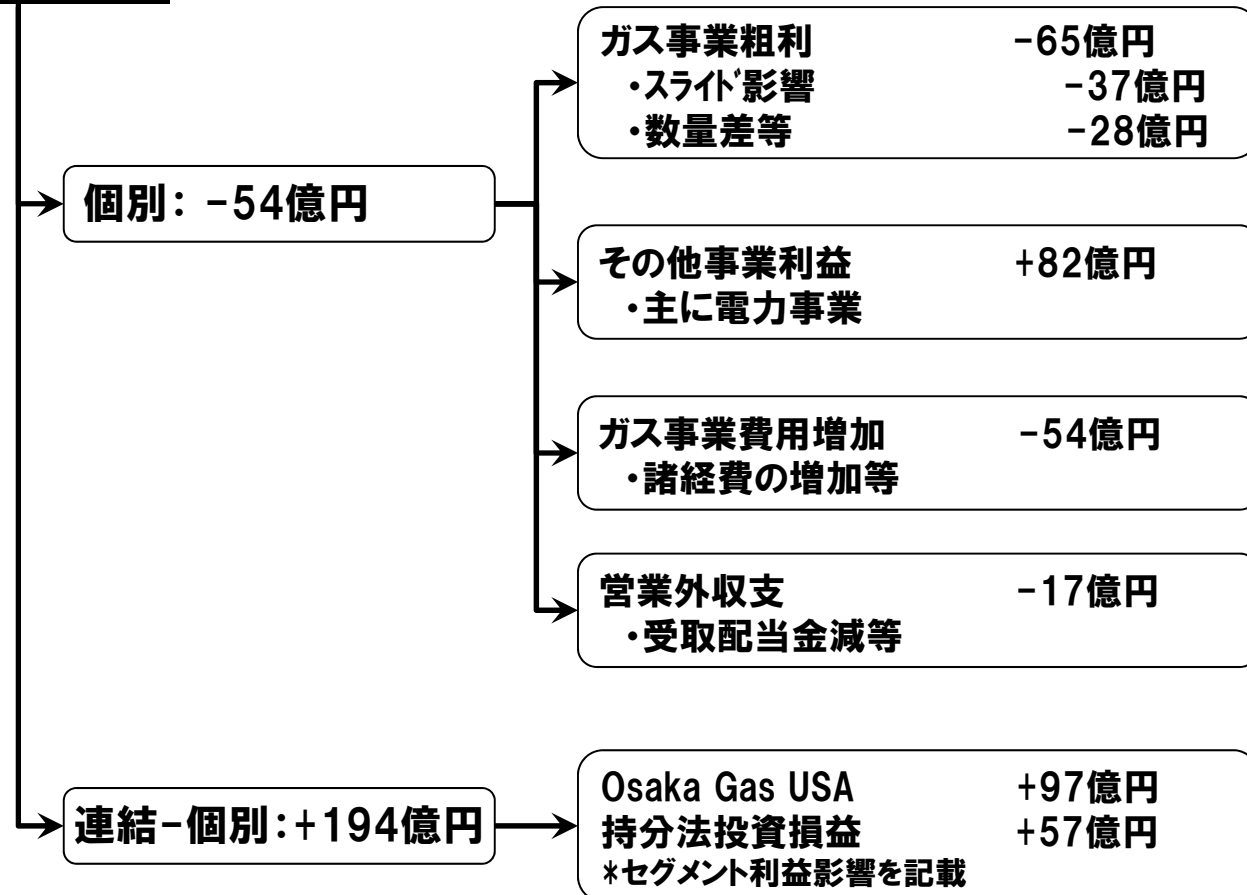
20.3期 → 21.3期見通し(差異)
 13,686億円 13,800億円 (+113億円)



21.3期見通しの経常利益差異(対前年)

20.3期 → 21.3期見通し(差異)
 860億円 1,000億円 **(+139億円)**

+-の符号は利益への影響を表す。



年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-6億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、21.3期の連結経常利益は約-5億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、21.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。

以 上